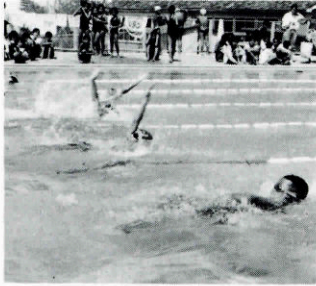


長門・大津水泳 スポーツ少年団交歓大会



(力泳のスポ少団員)

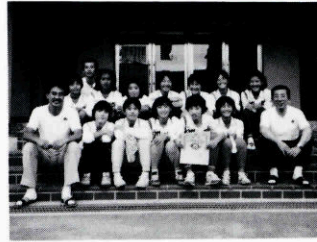
水泳スポ少団員相互の親睦と、日頃の練習成果をこの大会で、それぞれに発揮しました。

順位

男子	優勝	(明倫)
	4位	(浅田)
女子	準優勝	(明倫)
	5位	(浅田)

山口県体育大会・スポーツ少年団 バレーボール大会 準優勝

9月23日(日)に、防府市で行われた県大会に、みすみ明倫バレースポ少(女子)チームが、三隅町の代表として参加しました。華城小の体育館で行われた



試合では、1回戦、2回戦と勝ち進み決勝に望みましたが、惜しくも0-2で敗れ準優勝となりました。選手の健闘を讃えたいと思います。

スポーツの話題

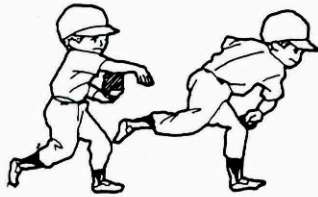
「自己訂正する

勇氣」を持って

家のすぐそばに県立の高校がある。日曜日などはグラウンドを開放して、少年野球の練習が朝早くからかけ声と共に始まる。時にはベンチに座って子どもたちの練習ぶりを見る事があった。

確か理屈にあった実践的な練習かもしれないが、少年たちの顔には、あきらかに軽べつと不満の表情がのぞいている。なぜ指導者は素直に子どもたちの前で、「ごめんね」と言えないのだろうか。「ごめんね。今度はビシッときめるからね」と自己訂正する一言があったなら、少年たちは、その後の練習にも自らが入ると思う。人はみんな自分が一番大切で、このミスをした場合にも素直にあやまる事ができない。

かつて阪急(現オリックス)の監督に就任した上田利治氏が、はじめてさい配を振ったゲームが川崎球場の対ロツテ戦であった。六時半ゲーム開始、終了が十時三十五分という長いゲームで、投手六人を投入して、かろうじて阪急が勝った。当時の阪急はいわゆる「サムライ」ぞろいで、



「なんだ／＼へボ監督。前の西本さんだったら、こんな投手の使い方はしなかっただろう。だめだ今度の監督は」、ベテラン選手の顔には、あきらかに監督に対する不平不満がみなぎっていた。試合終了後、

迷惑をかけた。これから僕はもっと勉強する。今晚はゆっくり休んでくれ。この一言でベテランの心の中に充滿していた不平不満は、強風に払われるようにすーっと消えて、
「よし、この監督のためなら、がんばろうじゃないか」と、これが当時の阪急四年連続日本一の第一歩である。
部下の前で自己訂正するには、相当の勇氣が必要である。浄土真宗の蓮如上人が、「われを悪しと思う人なし。これ上人の御罰なり」と言っているが、素直に「ゴメンナサイ」と言える指導者には、魅力いっぱいである。なんにもわからない子どもだから……、部下だから……、経験のない学生だから……、と、思って自己訂正する気持ちを持てた場合には、子どもたちの、部下の、学生の信頼と尊敬をも失う事になりかねない。
「エラーイズ ヒューマン」という言葉があるが、ミスがあるから人間である。問題は、ミスをした時のあとの態度である。言い訳やごまかしを言う前に、だれの前でも、素直にあかると、「ゴメンナサイ」といえる勇氣を持ってほしい。
(鈴木文弥 筆)

「みんなのスポーツ」から